

JA三重厚生連は、医療・保健・福祉活動を通じて、組合員と地域住民の皆さまが、安心して健やかに暮らせる地域づくりに貢献していきます。

# 厚生連だより

Letter of JA Mie Koseiren

Vol. 76

2018. 05

自然豊かな大台町の山間地に広がる茶畑



## もくじ

ごあいさつ	2
うつ病（季節型）	3
アイセンターを開設しました／健診は最大の自己防衛	4
DMA T活動の今後の展望／送迎用バスの更新について	5
診療情報管理室、いぶし銀であれ	6
奥伊勢在宅医療介護連携支援相談窓口を開設 ／認定看護師紹介～感染管理認定看護師としての活動～	7
ドックの後は心づくしのお食事をどうぞ	8

CHECK!



JA三重厚生連の  
取り組みを紹介!

## ごあいさつ



三重北医療センター  
いなべ総合病院 院長 相田 直隆

平成 30 年 4 月 1 日付で、三重北医療センターいなべ総合病院院長を拝命いたしました相田直隆です。座右の銘は「不惜身命」です。経歴は、昭和 52 年新潟県立佐渡高校を卒業後、東京で 1 年浪人生活を送り、名古屋大学理学部数学科を 3 年で中退して名古屋市立大学医学部に入学、昭和 62 年に卒業しました。卒後は名古屋市立大学病院整形外科で研修し、名古屋市立東市民病院、国立豊橋病院、大同病院、大学病院、大垣市民病院と勤務し、平成 11 年 10 月に員弁厚生病院に赴任しました。犬飼院長、故本郷院長、水野院長、石川院長のもとで多くの経験を積ませて頂きました。

当院は内科系医師の減少に伴い、厳しい経営環境ではありますが、来院された患者さんが本当に満足して笑顔で病院を後に出来るよう、医療の質、安全、チームワークといった医療サービスを高いレベルで提供していきたいと思っております。

職責を全うできるよう邁進していきますので、今後ともご支援、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

時代の趨勢とともに流行り廃りの多い疾患概念を命名しやすい昨今ですが、うつ病における因子として、価値観が変容し既にこの21世紀においては古典的となってしまうたかのように思われる几帳面・生真面目・勤勉・完全主義・強い責任感等といった秩序志向性をもった「メランコリー親和型」といった性格因や、俗的に言われるような「引越うつ病」「転勤うつ病」「昇進うつ病」「空の巣症候群」といった環境因等があることは有名です。

また、その他の因子として……………

(千言万語の白川夜船)。

このような教科書的内容は、その本質とは異なる表層面についてのみの指摘に留まっていることも多々あるように感じられるため、ここではそのような内容は割愛することとしてある本質を見抜いていたであろう患者さんとの出逢いを記そうと思います。

三寒四温も終わりを告げた春の柔らかなさが周りの風景を包むある日、新しい新患のなかにネイビー色のスリーピーススーツを着こなした40代の紳士が私のもとに来院した。そのスーツには皺もなくカッターシャツにもアイロンがきちんと施され、それはまるで新調したかのような出で立ちであったが、よく見ると今朝刺ったであろう右の頬にはやや剃り残された部分が朝

の慌しさを物語るかのように残されていた。

彼は入室すると一礼し自らの体重に身を任せるように重々しく着席した。彼は私のルーチンワーク化した質問に終始、微笑みを絶やさなかったが、その微笑みのたびに現れる皺は表皮・真皮を通り抜け表情筋に達するまでに深く長く刻まれたものであった。そしてその彼の視線は明らかに私の方に向けられているのであったが、その視線の先はこの私を突き抜け私の背後にある風景を見ているかのようであった。

診察も中盤に差し掛かった頃、私はA-1以前の古典的20世紀のコンピューターですら質問可能なステレオタイプ化したあの定型的質問をした。

「最近何か大きな出来事やきつかけはありませんか？」

その質問に対ししばらくのあいだ彼は表情一つ変えずにいたが、それからどれくらい時間が経ったであろうか、ある一節をもじったであろう次のことをあの深く刻まれた微笑みを再び浮かべ、こぼつりと呟いた。

「桜が眩しかったから」と。



アイセンターを開設しました  
 ～三重県初の最新システムも導入～  
 三重北医療センター 菰野厚生病院

眼科部長／アイセンター長 松田吉人

平成29年4月にアイセンターを開設し、一年余りが経過しました。増えてきた外来患者さんに対応するため、スタッフを増員し、現在、常勤医師4名、視能訓練士6名、看護師5名、看護補助1名、事務3名となっております。診療内容は、外眼部疾患、白内障、緑内障、網膜硝子体疾患等、ほぼ眼科全般にわたって対応しています。アイセンター開設にあたり、様々な最新の検査機器を揃えることができており、その検査機器を駆使することにより、侵襲の少ない方法で、正確な診断、治療方針を決定するようにしています。

保存的な治療で対応できない場合は、手術治療を選択することになります。眼科専用手術室、最新の手術機器を使用し、優秀なスタッフと正確で、安全な手術を行っています。白内障手術は、より精度の高い手術が必要になってきており、手術をガイドしてくれるイメージガイドシステム（図1）や

屈折情報を術中にリアルタイムに測定できる、術中波面収差解析装置を用いています（どちらも三重県で初めて導入）。希望のある方には多焦点眼内レンズ（平成21年10月1日より、多焦点眼内レンズを用いた白内障手術の先進医療が承認されています）、必要な方に



（図1）イメージガイドシステム



アイセンター スタッフ

は乱視矯正眼内レンズを用いています。これらの眼内レンズはプレミアム眼内レンズと呼ばれ、当院では、約半数を占めています。糖尿病網膜症や網膜剥離等に対する硝子体手術は広角眼底観察システムを用いた侵襲の少ない25G極小切開硝子体手術で施行しています。さらに、3次元映像システムも導入しています（三重県で初めて）。緑内障手術は従来の手術で対応できない症例に対し、チューブシャント手術を選択するようになっています。また、眼瞼下垂や眼瞼内反症など外眼部の手術は、炭酸ガスレーザーを使用することにより、出血しにくい精度の高い手術が可能です。

これから、アイセンターの名に恥じめよう、可能な限り当院で診断・治療を完結できるよう努め、最適な医療を提供できるようにしていきたいと考えています。

健診の目的は、病気を早期に発見し、治療して、死亡率を減少させることにあります。

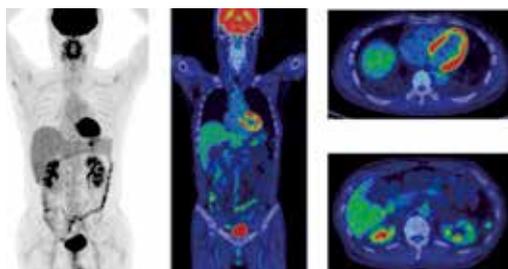
特に「がん」で死亡する割合は年々増加傾向にあります。早期に治療を行えば、より高い確率で改善が可能と言われています。エポックでは、従来の人間ドックに加え、昨年よりPET-CT検査を導入しました。身体へのストレスが少なく、3時間程度でほぼ全身のがんのチェックが可能となりました。

「がん」も含め様々な病気のほとんどは個々の生活習慣が引き起こしています。そこで4月から、これまで以上に健診の事後指導を重視し、食事や運動などの生活習慣を一緒に考え、必要な改善を目指すべく、医師・保健師・健診スタッフの体制を新たに整え、パワーアップしております。年に一度のご自分の体へのご褒美として、また、自己防衛の一つとして健診をお役立てください。

今後、高齢化が進む中、「認知症」の予防を検査項目に加え、健診内容の充実を図り、健診を受けることで、今より充実した健康生活を手に入れるお手伝いができたらと心から願い、スタッフ一同、日々努めたいと思っております。

健診は最大の自己防衛  
 ～健康で充実した生活を送るために～  
 松阪中央総合病院

エポック 健康管理課長 平谷 恵



PET-CT検査で全身チェック



エポック スタッフ

DMAT活動の今後の展望

「防ぎえた災害死」を減らしたい

鈴木中央総合病院 CE部 臨床工学技士 向井 慎治

鈴木中央総合病院DMAT（災害派遣医療チーム）は平成20年に結成され、今年で10年目を迎えます。現在は外科部長の金児医師を中心に他医師4名・看護師7名・業務調整員4名 計16名で活動しております。最近の活動としましては、熊本地震の際には、ロジスティクスチームとして熊本県庁にて業務支援活動を行い、また阿蘇地域において救護班として医療支援活動を行ってまいりました。

訓練においては、平成28年度 内閣府主催 大規模災害時医療活動訓練では、いなほ総合病院 SCUにて訓練活動を行うとともに県調整本部（鈴鹿庁舎）でも活動訓練を行いました。平成29年度の当該訓練では、三重県DMAT調整本部にて本部活動を昨年度に引き続き行いました。

今年、3月15日に院内防火防災委員会と連携し、発災直後による災害対策本部の立ち上げ訓練も行いました。



院内防火防災訓練 対策本部



大規模災害時医療活動訓練 県調整本部

震の危険が言われる中、我々DMATはこの鈴鹿地域の自治体・消防・警察・医師会などの関連機関と連携をかり、「防ぎえた災害死」を少しでも減らしていける様、今後も訓練に参加していきたいと思っております。

また鈴鹿中央総合病院は鈴鹿・亀山地域で唯一の災害拠点病院であるため、災害時には当該病院の果たす役割は大きく、超急性期から慢性期まで対応できる事業計画、つまりBCP（Business continuity planning：事業継続計画）の作成を今後の課題とし、BCPに沿った訓練も今後は行っていきたいと思っております。

送迎バスの更新について

「通院の足となり日々町内を運行中」

南島メデイカルセンター 事務部長 見並 邦久

南島メデイカルセンターの送迎バスにつきましては、南島地区の皆さんの足となり、日々の通院を下支えしてまいりました。平成13年10月から16年間の長きにわたり、ご利用いただいておりますが、この度、車両の老朽化により、送迎業務を引退する運びとなりましたのでご報告申し上げます。

そして、平成30年3月からは、新しく送迎バスが更新されましたので、あわせてご紹介させていただきますと思います。送迎バスの利用者さまにつきましては、年々その数が減少しておりますが、お車を運転されない方、路線バスの利用が不便な方がまだまだたくさんみえることから、引き続き自主運行させていただくこととなりました。

運行については、今まで通り、月曜日は道行・阿曾浦・東宮方面、火/金曜日が棚橋・古和浦・神前方面、水曜日が阿曾浦・古和浦方面、木曜日は東宮・阿曾浦方面と変わりありません。

地域の医療・介護・福祉事業を担う、南島メデイカルセンターの新たなシンボルとして、地域の皆さんが安心して通院していただけるよう、日々町内を運行いただいております。新しい送迎バスが、はやく町の風景に馴染めるよう、地域の皆さんの生活の一助となれ

ますよう、職員一同努めてまいります。皆さまの一層のご利用をお待ちしております。



トヨタ コースターLX  
直噴ディーゼルスターボ4L  
全長/6.25m 乗車定員/25人

## 診療情報管理室、いぶし銀であれ

膨大な診療録の管理に奮闘の日々

三重北医療センターいなへ総合病院

診療情報管理室 事務員

高山直也

「診療情報管理室」又は、それに類似した機能を持つ部署について、皆さんはどのような印象若しくはイメージをお持ちでしょうか。

当院診療情報管理室の主な業務内容としましては、入院診療録の管理及びそれに付随する業務、レセプトコード10病名チェック、そして、全国がん登録の3つです。順に簡潔ながらご説明させていただきます。

まずは、入院診療録の管理及びそれに付随する業務についてです。

当院は、平成26年より電子カルテへ移行しましたが、同意書等の直筆書類につきましては、依然として紙保管が続いており、ここではそれらの管理も継続しております。

また、診療録を管理する上で付随する業務としましては、過去の診療録の貸出業務と診療録開示です。

次の「レセプトコード10病名チェック」へと移る前に、「包括医療費支払制度方式」であるDPPCについて、かいつまんで解説を致します。

①1日当りの入院基本料が定額化されている。

②例外を除き、従来出来高請求できていた処置・薬剤等は入院基本料に包括される。

③1日当りの入院基本料は『医療資源病名』、『治療内容』等によって決定し、疾病毎で異なる。

④医療資源病名は『国際疾病分類ICD10』より選択される。

その為、医療資源病名は常に最適解を求められており、そのチェックを随時行っております。

最後の全国がん登録ですが、こちらは国の政策協力として行っております。

従来は、院内がん登録、地域がん登録など一医療機関、特定地域におけるデータ集積の実施でしたが、今後のがん治療に対する計画及び対策、地域ごとの特色等を把握する根拠付けの為、もっと正確で詳細なデータ集積を目指して、平成28年1月からは全国がん登録として、全国全ての病院及び一部の診療所のデータ提出が義務化されました。

当院は、今年度終了まで「がん診療連携推進病院」の指定を受けており、来年度からは「がん診療連携病院」の指定を受けることができっておりますので、癌治療におけるますますの貢献が期待されていると考えております。

この為、医療従事者の一人として、そして、がん登録実務者として、漏れや誤りがないよう、日々の業務に励んで行きたいと考えております。

最後となりますが、「診療情報管理室、いぶし銀であれ」をモットーに、今後も当院の土台を支えていきたいと考えております。



診療情報管理室内図書



診療情報管理室



診療情報管理室入口

**奥伊勢在宅医療介護連携支援相談窓口を開設**  
 ～医療と介護をつなぐ架け橋として～  
 大台厚生病院 地域医療連携室 社会福祉士 生駒 好司

このたび平成30年4月より、「奥伊勢在宅医療介護連携支援相談窓口」を大台厚生病院地域医療連携室内に開設しました。当窓口は、大台町と大紀町の在宅医療・介護連携推進事業の事業項目である「在宅医療・介護関係者に関する相談支援」を両町からの委託事業として設置・運営するものです。

コーディネーターは、当院の社会福祉士1名と看護師1名が担当します。業務内容は、おもに医療機関や介護関係専門職の方から在宅医療と介護の連携に関する相談受付、連携調整、情報提供等です。当院で専門職として現場で働く担当者がこれまでの経験を生かして、この地域の方々が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるよう医療と介護をつなぐ仲介役として支援させていただきます。

各関係機関の方には御支援・御協力の程宜しくお願いいたします。



奥伊勢相談窓口 スタッフ

- **名称** 奥伊勢在宅医療介護連携支援相談窓口（通称「奥伊勢相談窓口」）
- **開設月** 平成30年4月
- **場所** 大台厚生病院2階 地域医療連携室内
- **連絡先** 05988・82・3939（電話・FAX兼用）
- **担当者（コーディネーター）** 社会福祉士 生駒好司  
看護師 保田訓子
- **受付時間** 月～金（祝日除く）9：00～16：00
- **相談対象** 医療機関（おもに両町の開業医）、介護保険事業所、行政機関
- **相談エリア** 大台町、大紀町
- **業務内容**
  - ① 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進
  - ② 医療・介護関係者の情報共有の支援
  - ③ 在宅医療・介護連携に関する相談支援
  - ④ 医療・介護関係者の研修
- **担当者より一言**  
 生駒「医療と地域福祉の架け橋として頑張っていきます」  
 保田「ふたりで力を合わせて、より良い支援ができるよう役割を果たしていきたいと思えます」

**認定看護師紹介**  
 ～感染管理認定看護師としての活動～  
 松阪中央総合病院 外来検査 感染管理認定看護師 若山 晃大

私は、感染管理認定看護師（CNI-C）として、所属部署である外来検査（主に内視鏡室）での看護ケアをしながら、兼任で外来検査と外来全体の感染管理をしています。外来は、患者さんの初期対応をする部署であり、感染対策が重要であるため、専従のCNI-Cとともに毎週外来環境ラウンドを実施しています。また、感染対策チーム（ICT）と連携し、看護師だけでなく医師や事務部門など、全職員を対象に感染管理に関する実践・相談・指導を行っています。

2015年に米国において内視鏡スコープ洗浄が不十分であったことから感染伝播した事例の報告がありました。私は内視鏡技師の資格も持っているので、感染管理（洗浄・消毒など）の知識だけでなく、スコープの構造、特性を十分に考慮し、事例のようなことがないように、洗浄・消毒などの感染管理に力を入れています。また、昨年は台湾で内視鏡洗浄・消毒に関する講演の機会も得ました。

松阪中央総合病院が他施設のモデルとなるように院外での活動も積極的にを行い、より安全で安心した検査が提供できるよう日々努力していきたいと思えます。



内視鏡洗浄・消毒に関する講演：台湾



ドックの後はいびくのお食事をいびく  
 地元食材を使用、フライは熱々を  
 三重北医療センターいなべ総合病院 栄養管理科長 瀬古ちさと

健康診断を受けることが、「病気を防ぐ手立て」として、自分の為だけでなく、自分の大切な家族の為にも重要であることはいつまでもありません。しかしながら健診には痛みを伴う検査もあり、苦痛に思われることがあるのではないのでしょうか。

当院ではそんな検査の緊張感から解放されてご自宅に帰っていただきたいという思いを込めて、人間ドックを受けられた方(当日内容変更等の例外あり)を対象に、『ドック食』をサービスさせて頂いております。メタボリックシンドローム予防の為、魚介類を中心に多食品を少量ずつの8品、米はいなベコシヒカリ、里芋は『地元いなべ産』を使用しております。

特にエビフライは、健診センターと背中合わせに位置する職員食堂の厨房で、検査が終了された順に1人分ずつ調理するため、揚げたての熱々を召し上がったの熱々を召し上げてが美味しい」とのご意見を頂き励みになっております。



春夏バージョン 5月~9月



秋冬バージョン 10月~4月

では、メインが『金目鯛の夕焼き』となり、小鉢も『茶そば』『生野菜サラダ』『手作り卵豆腐』等、季節に合わせた内容となります。  
 ちなみに午後からの脳ドックのみ受診の方に対しては、『ミックスサンド』もしくは『天むす』のいずれかを選んで頂いております。アレルギーの方や宗教的禁止食品のある方もみえますが、栄養管理科と健診センターの連携により、それぞれの方に合った安全な食事の提供が可能となります。  
 年に一度のドックですが、「いなべドックを受けると美味しい食事が食べられる」と楽しみにしてもらええる様、これからもスタッフ一同、心を込めて作らせて頂きます。

JA三重厚生連

# 人に 地域に やさしい看護

看護師 助産師 看護補助員 介護福祉士 募集



## 厚生連だより Vol.76

発行 / 三重県津市栄町1丁目960番地

### 三重県厚生農業協同組合連合会

TEL 059-229-9191 FAX 059-224-4354  
<http://www.miekosei.or.jp/> E-mail: info@miekosei.or.jp

自然保護のため、石油系成分の少ない植物油性インキを使用しています。